

平成 2 2 年 第 4 回定例会

(1 2 月 1 0 日)

一 般 質 問 資 料

(1 回 目)

自由民主党千葉市議会議員団
向 後 保 雄

平成 22 年 第 4 回定例会（12 月 10 日）

2 回目から一問一答

通告時間：40 分

自由民主党千葉市議会議員団の向後保雄でございます。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

1 公会計基準モデルの適用について

まず、公会計基準モデルについて伺います。平成18年6月に「行政改革推進法」が制定され、それを契機として、同年8月には総務省から「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」が通知され、単式簿記・現金主義会計におけるストック情報やコスト情報の欠如を補うために、新たな公会計制度の整備による地方公共団体の未利用財産の売却と資産の有効活用の促進を目指して、資産・債務改革の推進が図られました。

複式簿記による発生主義会計の導入を前提とした「新地方公会計制度実務研究会報告書」において示された財務4表、貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書による公会計整備のためには、開始貸借対照表の整備・作成が必要不可欠であり、そのためにはまずは公有財産台帳を活用した固定資産台帳の作成をしなければなりません。本市においては、当初、「総務省改訂モデル」による財務4表整備を考えておりましたが、「総務省改訂モデル」の欠点を指摘させていただき、時価に近い公正価値（再調達価格）により固定資産を1単位ごとに評価・整備する「基準モデル」の採用を提案させていただき、現在は基準モデルにより財務4表整備がされております。

また、平成20年3月末を目処に、固定資産台帳の作成は、300万円で外部委託したと伺っております。そこでお尋ねします。単式簿記による現金主義会計を複式簿記による発生主義会計に変換するシステムは何処のどのようなシステムによって行っているのか、またいくらで委託しているのか伺います。

2 富士見2丁目の防犯カメラについて

次に、富士見2丁目の防犯カメラについて伺います。現在この地域には11ヶ所に32基の防犯カメラが設置されており、犯罪の防止に役立っていると認識しております。しかし、依然として客引きやキヤッチが減っておりません。今年の8月8日に「安心して楽しめる繁華街の創造」というテーマで行われた中央区長とのパネルディスカッションにおいて、中央警察署生活安全課長の話によれば、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」の違反として、平成21年には24人、本年7月現在では19人を検挙したとっておりました。地元の藤間商店会長さんや虎やの森山さん達は自分達の街の防犯に積極的に取り組んでおり、中央区長や警察官の協力を得て、月に3回、富士見セーフテーブルという名称でパトロール活動をしてきています。にもかかわらず、いっこうに客引きは減りません。そこで伺います。富士見2丁目に設置された32基の防犯カメラは、どのように活用されているのでしょうか。

3 栄町商店街の電線共同溝工事について

次に、栄町通り商店街の電線共同溝整備事業について伺います。

栄町通り商店街は、「千葉市中心市街地活性化基本計画」に基づき、現在、国の補助事業を活用する予定で商店街環境整備事業を進めております。

この環境整備事業は、そもそも栄町通り商店街の方々にとって電線共同溝工事をするにはアーケード撤去をしたほうが工事がスムーズに行く、あるいはアーケードを撤去しないと工事ができないとの説明を受けたためやむなくアーケード撤去に同意をしたという方が多いです。にもかかわらず電線共同溝工事が実施されないのはどうゆうことなんだ、との意見が大勢でており、事業実施に当たっての住民合意形成がうまくいっておらず、このままでは街の活性化を商店街が一丸となって進めてゆくことが出来なくなってしまいます。この環境整備事業は、安全・安心な商業環境の形成を目的とし、商店街灯や防犯カメラ等の整備により、回遊性の確保が図られ、中心市街地の活性化に寄与することを大いに期待してのスタートだったはずですが、まさにはじめに電線共同溝整備事業ありきの事業であったわけでは、ありません。一説には、地元で栄町通りの道路線形などについて、様々な意見があったため、当局は、やむなく

電線共同溝整備事業の設計着手を見送っていたとの情報もありましたが、最近、地元の考え方が定まり電線共同溝整備の要望書が提出されたと伺いました。

このように、環境整備事業を進める上で、電線共同溝整備は重要な事業であることから、早期着手と完了が望まれるところであります。

そこで、まずはこのような栄町通り商店街の現状を踏まえた上で、本事業の着手時期と完成見込みの時期について市長のご答弁を伺いたいと思います。

4 自転車のレンタル事業と

自動二輪車の駐車場対策について

次に、自転車のレンタル事業についてお伺いいたします。

本年 7 月に環境経済委員会視察で富山市に行つてまいりました。人口も予算規模も千葉市の半分に満たない富山市ですが、世界の先例となる「低炭素社会の実現」への転換を進め、国際社会を先導するという大いなる目標を掲げ、環境モデル都市に選定されました。その目的の中に、わが国を低炭素社会に転換してゆく為には、ライフスタイル、都市や交通のあり方など社会の仕組みを根本から変える必要があるとして路面電車による公共交通活性化の推進やレンタル自転車による公共交通網との相互活用によりまちなか移動の利便性の向上を目指し、自動車利用の見直しを図っております。本市にも都市モノレールという環境にやさしい交通機関がありますが、都市モノレール延伸には膨大なコストを要します。それに比べると富山市のような路面電車は大幅にコストダウンが図れます。都市モノレールについての質問は先に送るとして、今回は自転車のレンタル事業についてお伺いいたします。

富山市では、平成 20 年度に国の環境保全型地域づくり推進支援事業を活用して中心市街地 15ヶ

所に自転車ステーションを設置し、150台の自転車のレンタル事業を民間事業者に委託をしております。生憎自転車のレンタル事業では収益を得られず、広告収入で運営しているのが現状のようです。しかし、低炭素社会実現にむけて自転車の利用促進を図ることは必要なことだと考えますが、今後の自転車の利用促進に対する本市の考えをお伺いします。

次に、自動二輪車の駐車場対策について伺います。

本年6月17日に、わが自民党会派より森茂樹議員、小松崎文嘉議員、そして私の3名と千葉オートバイ事業協同組合の平野理事長、塩谷相談役の5名で藤代副市長を訪ね、自動二輪駐車場対策について所管する部署を決めていただけるよう要望いたしましたが、その後の状況について伺います。

5 中央港のまちづくりについて

最後に、中央港のまちづくりについてお伺いいたします。

長引く経済不況のあおりを受けて中央港地区の遊休地は買い手がつかないままとなっており、しばらく工事がとまっていた、丸紅が建設中の高層マンションもやっと9月から建設工事が再開されたようです。

先の第2回定例会において平成19年度から着工した旅客船さん橋工事は平成25年度完成予定とのことですが、旅客船さん橋工事の早期完成がこの地区のまちづくりに重要なポイントとなることは皆が認識するところです。

鉄道駅への近接性、広域幹線道路からのアクセシビリティ、海辺の親水空間の存在、既存の臨港公園プロムナードや県立美術館、ポートタワーなどの観光施設との連携という立地特性をどのように生かして賑わいのあるまちの創出をしてゆくつもりなのか、本市としてのこの地区のまちづくりの方向性を示すべきと考えますが、具体的にどのようにしてゆくつもりなのか考えを示してください。

以上で私の1回目の質問を終わります、市長及び当局の明快な答弁をお願いいたします。